

NEWSLETTER

CONTENTS

TOPICS

- ① 第7回FD研究会・NITech CAN研究力向上セミナー「研究室のマネジメント」
- ② 女性技術者リーダー養成塾10周年 フォローアップ講座
- ③ 第10期女性技術者リーダー養成塾
- ④ 工学進路選択支援イベント モノづくりチャレンジ
- ⑤ 工学の扉を開こう 新動画を公開
- ⑥ 2024年度 第11回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」授賞式～受賞者の声～

COLUMN

電気機械工学科 准教授 牛島達夫さんの読書案内
「他者を感じる『やさしいヒト』へ」第3回

TOPIC 1

第7回FD研究会・NITech CAN研究力向上セミナー
「研究室のマネジメント」

2025年3月17日、第7回FD研究会・NITech CAN研究力向上セミナー「研究室のマネジメント」を、工学教育総合センターとダイバーシティ推進センターが共催しました。

講師に、電気機械工学類の平田晃正教授、小寺紗千子准教授をお迎えし、共同での研究室運営に関する実践的な知見を共有いただきました。

平田教授は、これまでの研究プロジェクトの推移を振り返りながら、研究テーマの設定、資金調達、国際連携の構築について具体的な手法を紹介されました。続いて、小寺准教授から、学生指導を中心に、ゼミの運営、進捗管理、学生主体による研究室Wikipediaの運営や役割分担についてお話がありました。



小寺紗千子准教授

講演後には、学生が主体的に取り組む体制を築く工夫や、円滑なコミュニケーションのためのツール活用、学生によるWikipedia運営における情報管理方法について質問がありました。

50名の教員が参加し、「プロジェクト研究と大学事務作業、学会活動とのバランスのとり方が大変参考になりました」、「自分の研究室について考える良い機会になりました」などの感想が寄せられました。



平田晃正教授

TOPIC 2

女性技術者リーダー養成塾10周年 フォローアップ講座

名古屋工業大学の女性技術者リーダー養成塾は、第10期を記念して卒塾生を対象とした「フォローアップ講座」を2024年12月3日に開催し、7社から11名の女性技術者が参加しました。

講座では2つのセミナーを実施しました。最初に、名古屋工業大学の伊藤洋介准教授が「ものづくりにおける知財活用の意義」をテーマに、特許の基礎や発明発掘について講義し、参加者は技術者と消費者の視点を行き来しながら、知的財産の戦略と社会貢献を学びました。



我妻三佳氏

続いて、本田技研工業株式会社の我妻三佳氏が、卒塾後のキャリアの変化についてディスカッションを実施した後、「生成AIブーム～リーダーはどう変わるか～」をテーマに、AIの影響と求められるスキルについて講義しました。

参加者からは「『女性だからこそ直面する困難もあるが、負けないでほしい』という言葉が印象的だった」、「9年前の受講時とは異なる道を歩んでいるが、挑戦を重ねてきたと実感した」との声が寄せられました。



伊藤洋介准教授

TOPIC 3

第10期女性技術者リーダー養成塾

「名古屋工業大学女性技術者リーダー養成塾」は製造業に勤めている女性技術者のための講座で、女性技術者がリーダーとして長く活躍し続けるために必要なスキルを学び、長期的視点でキャリアをデザインする機会を提供することを目的としています。

2024年8月23日（金）に第10期の入塾式を行い、東海地方の製造業を中心とする22社の参加企業から24名の塾生を迎えました。第2回講座（9月10日）では、愛知工業大学仁科健教授による品質管理、名古屋工業大学鷺見克典教授によるコミュニケーションの基本スキル、神田幸治准教授によるヒューマンエラーについての講義が行われ、それぞれ問題点を整理し、対策するための手法を学びました。



仁科健教授



鷺見克典教授



神田幸治准教授



伊藤洋介准教授



安藤真澄教授



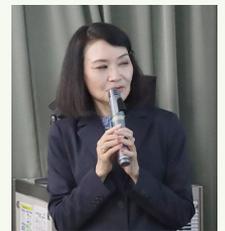
落合清恵氏

第3回講座（9月27日）では、知財活用、マーケティング、リーダーシップをテーマに講義が行われました。名古屋工業大学伊藤洋介准教授の講義では、特許法の基礎を学んだ後、メーカーの観察を通じて、発明発掘のトレーニングを行いました。また、愛知東邦大学経営学部 安藤真澄教授による講義では、マーケティングの定義や基本的な考え方から、市場ニーズ、顧客、自社と競合を分析する手法、商品を効果的に市場に出すためのプロモーション戦略まで、マーケティングの基礎を幅広く学びました。続く、トヨタ自動車株式会社・名古屋工業大学特任准教授落合清恵氏によるワークショップでは、ものづくり現場の課題やリーダーシップについてディスカッションし、技術者・リーダーとしての経験に基づいたケーススタディを通じて実践的に学びました。

第4回講座（10月23日）では、プロジェクト・マネジメントとチームビルディングを学ぶ講義が行われました。名古屋工業大学北村憲彦名誉教授による講義では、ご自身の潤滑油開発の経験をもとに、原理に基づく試行錯誤と原因追究の重要性が説明されました。続いて、本田技研工業株式会社取締役 我妻三佳氏による講義では、「エモーショナル・インテリジェンス(EI)」をキーワードに、リーダーとしての資質やコミュニケーションスタイル、メンバーの成長支援の方法をディスカッションしました。



北村憲彦名誉教授



我妻三佳氏

11月15日には卒塾式が行われ、塾生と共に、参加企業より26名の推薦責任者が出席しました。塾生一人一人が壇上で「リーダーになるための行動宣言」として、1分間でスピーチをし、西岡慶子塾長（株式会社光機械製作所代表取締役社長・名古屋工業大学客員教授）より、修了証が授与されました。

また、式に続いて行われた塾長講演会「経営に活かすダイバーシティの力」では、多様性（ダイバーシティ）と包摂（インクルージョン）が新たな視点やアイデアを生み出し、組織の強さや成長につながることを、個人が変化や違和感に気づき、他者とコミュニケーションし、行動に移す力の必要性について話され、最後に、卒塾生に向けて「Today is the youngest you will ever be.」（「今日の私が一番若い」）という言葉が贈られました。



西岡慶子塾長

卒塾生は、受講を振り返って、「全員製造業の女性ということで、困っていることや知りたい部分と同じであり、仲間ができたようでとても心強かったです」、「受講前には思いつかなかった具体的な行動宣言ができたので、本養成塾での成長を感じることができました」と語りました。



TOPIC 4

工学進路選択支援イベント モノづくりチャレンジ

「第6回 3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」

2024年12月21日、女子中高生を対象に、「モノづくりチャレンジ：第6回 3Dプリンターでオリジナルグッズを作ろう！」を本学11号館2階CAD室にて開催しました。

アンリツ株式会社 理事・CTO 野田華子氏（本学OG）を講師に迎え、中学1年生から高校1年生までの17名が、事前に考案したデッサンをもとに、3D CADでの設計を体験しました。

今回も、女子学生団体彩綾～ SAYA～を中心とする学部生・大学院院生6名が参加者のCAD操作をサポートしました。サポーターの学生は、事前に作品を作り、自己紹介の際に、自身が設計して3Dプリントされたオリジナル作品を紹介しました。



野田華子氏



初めて触れる3D CADに戸惑う様子もありましたが、サポーターの学生に相談しながら操作をマスターし、全員が3D作品を完成させることができました。

イベント終了後のアンケートでは、参加者から、「パソコンで作ったものが、実物として自分のものにできることが興味深かった」、「断面を確認したり、かみ合わせの部分や模様を入れるところは難しかったけど、思ったより簡単でびっくりした」という感想が寄せられました。

「第4回 プログラミング体験講座：ドキドキ棒で電気の仕組みを楽しく学ぼう！」

3月20日（木・祝）、ラーニング・コモンズEPSON STUDIOにて「モノづくりチャレンジ第4回プログラミング体験講座：ドキドキ棒で電気の仕組みを楽しく学ぼう！」を開催しました。

株式会社プロキッズがプログラムを進行し、本学で情報工学を学ぶ女子学生4人がサポーターを務めました。小4から中3までの女子児童・生徒20名が参加し、micro:bitを使って、導電するコース上を棒が通過するとブザーが鳴る仕組みをプログラミングした後、スチレンボードで「ドキドキ棒」を進ませるためのオリジナルのルートを描き、導電テープを貼って完成させました。

完成後はいよいよ実走です。導電テープに触れないように慎重に棒を運ぶ一方で、ゴールタイムも気になります。見学していた保護者の方もお子さんの作成した「ドキドキ棒」で遊んで盛り上がり、歓声も上がっていました。

参加者は、電気やプログラミングの基本知識を学びながら、自分の手で作品を作り上げる達成感を実感しました。イベント後には、「プログラミングが楽しく、何もないところから指示を組み立てて自動で動かせることに驚きました」、「理系を目指してがんばっている女子がたくさんいて、私もがんばろうと思いました」との声が寄せられました。



TOPIC 5

工学の扉を開こう 新動画を公開

女子中高生工学進路支援サイト「工学の扉を開こう」

女子中高生工学進路支援サイト「工学の扉を開こう」では女子中高生を対象に、工学部での学びやその魅力を伝え、工学分野への関心を高めていただくことを目的として、動画を常時公開しています。

2025年2月に公開した新動画では、生命・応用化学科中村修一教授の研究室を紹介し、博士後期課程1年・スタートアップ助教の飯塚夕夏さんが、触媒研究の魅力と、女子学生向けの支援制度の充実について語りました。

本サイトは、今後も継続してコンテンツを充実させ、工学の幅広い可能性を伝えていきます。



TOPIC 6

2024年度
第11回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」授賞式～受賞者の声～

2024年度「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」授賞式が行われました。

第11回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」は、細島頌子特任助教（生命・応用化学科 生命・物質化学分野）が受賞しました。10月15日に授賞式が行われ、小畑誠学長より細島特任助教に表彰状、トロフィー、副賞が授与されました。



第11回「名古屋工業大学女性が拓く未来賞」 受賞者の声

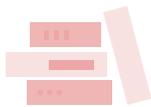
細島頌子特任助教（生命・応用化学科 生命・物質化学分野）

この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。名古屋工業大学での研究が実を結び、嬉しい限りです。研究室のメンバーはもちろん、大学関係者の皆様の充実したサポート、ともに研究に取り組んだ方々の支えがあったのこころと思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



研究室のみなさんと一緒に

私たちは光受容タンパク質であるロドプシンを研究しています。ロドプシンは光を受容することで様々な機能を発揮するため、今日では生命現象を操作するツールとして広く利用されています。現在、私たちはロドプシンを利用した視覚再生を目標に、治療薬の開発にも取り組んでいます。今後も"未来づくり"に貢献できるように、研鑽を積んでいきたいと思ひます。また私たちの取り組みが、後進の女子学生にとって女性研究者の1つのロールモデルとなれば幸いです。



電気・機械工学科 准教授
牛島達夫さんの

読書案内 他者を感じる「やさしいヒト」へ

第3回

2024年春夏、日本最初的女性弁護士、三淵嘉子(1914～1984)をモデルにした「虎に翼」が憲法14条（法の下での平等）をテーマにして朝の連続ドラマで放映されていました。今回紹介する評伝は、I・カーモン、S・クニズニク共著『ルース・ベイダー・ギンズバーグの「悪名高き」生涯』です。米国ではJFKがケネディ大統領を指すように、RBGとして親しまれ、2020年87歳で現役最高裁判事のままで生涯を閉じました。

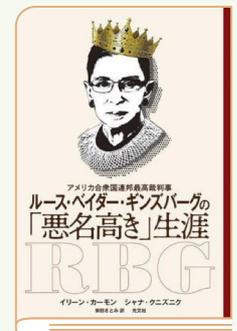
合衆国憲法前文は「我ら合衆国人民」で始まります。この民には当初白人男性しか想定されていませんでした。公民権運動により、出自や性別による雇用差別禁止が法的には実現しましたが、人種差別・性差別はなくなりませんでした。その中でRBGは女性が市民として男性と平等の権利を持つことが認められるように闘ってきました。

1978年ハーバード・ロースクール女性入学25周年行事で彼女は祝辞の中で「女性が彼ら（男性）の世界のまっただ中に、たった一人の珍しい存在ではなく、大勢加わることで初めて、彼らは学ぶことができるようになる。さまざまな個性や人格をもった女性たちといっしょに働く経験が必要である」と述べています。これが女子推薦入試を強く支持する小職の理由です。



トランプ大統領登場以来、米国ではDEI（多様性・公平性・包摂性）に対するバックラッシュが起きています。大統領就任式後の記念礼拝での女性聖職者の、移民やLGBTQへの配慮を求めるメッセージは、RBGの闘いの精神を継承し、バックラッシュへの異議申し立てなのです。

翻って「虎の翼」のロケ地にもなった鶴舞公園噴水塔前で、私たちも「はて？」と気づいたことを気兼ねなく話し合い、より風通しのよいキャンパスを一緒に実現していきたいものです。



I・カーモン、シャナ・クニズニク 著、
柴田 さとみ 訳
光文社（2024年9月30日）、316頁